

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	レタラ新川		
○保護者評価実施期間	2025年3月12日		～ 2025年3月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2025年3月12日		～ 2025年3月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の利用児童の様子を保護者の方々に伝える機会とツールを準備できていること。	送迎時に保護者の方と1日の様子を口頭で共有し、さらにICTを活用して1日の様子に関する情報提供、個別でも集団でも連絡の取り合えるツールを利用しているところ。	保護者の方々に対する情報の共有や周知をもっと徹底して行っていくことで、より高い透明性のある事業所運営ができるようになると考えられる。
2	毎日の清掃や定期的な消毒を行うことで、清潔感のある空間を提供し、安心・安全を届けられるように努めているところ。	病気や感染症に関する利用基準などを設けている点。	病気や感染症に関する利用基準を保護者の方々にも共有し、通所に伴っての不安感を少しでも減らせるような取組を今後行っていくことが大事だと考えられる。
3	利用している児童一人ひとりに対して、事業所全体で統一した対応のもと、そこに則した個々の知識やスキルを用いることで、集団としても個別としても療育支援が可能になっている点。	利用児童に関する情報共有については、朝礼、連絡ツール、ミーティングなどのできる限り行い、誰が関わっても大きくスレないようにしている点。	事業所内研修で知識やスキルを身に付け、一人ひとりがアセスメント、処遇を考えられるよう教育・指導のシステムを構築していくことが、より質の高い療育支援の提供になっていくと考えられる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域支援としての周囲の施設との交流がまだないため、この点を強化していく必要がある。	周囲の施設との接点をどういったかたちで繋げていくか、どういったかたちでお互いに有益な交流ができるかがまだ見えていない。	従事者それぞれの経験やアイデアを広く募り、町内会や地域性を調査し、レタラとしてできる地域交流を検討する会議などを設けていくことが必要と考えられる。
2	保護者同士の交流ができる場の設定を行っていくことで、より情報の共有がしやすくなっていくと考えられる。	保護者同士の交流の場を設けるにあたり、日時や場所の設定、兄弟姉妹の対応などについて、事業所側がどこまでできるかの調整が取れていない。	従事者それぞれの経験やアイデアを広く募り、保護者の立場に立って、どういったかたちであれば参加しやすいのかを検討し、企画する会議を行っていく必要があると考えられる。
3	避難訓練や非常時の訓練を行っているが、そういった情報発信がまだまだ弱いと考えられる。	情報発信に対する意識が弱く、ニーズの把握、発信側の感度、受け手側の感度、などの調査ができていない。	ホームページのブログを中心に、ICTシステムを活用して、さまざまな情報を発信し、どういった情報が受け手に届くかを調査していく必要があると考えられる。